

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式								
KD40M205		マーケティング論特研(Marketing Advanced Research)						対面								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択必修	2	1,2,3	経済学研究科 博士後期	後期	他	氏名 松 隈 久 昭  E-mail himatsu@oita-u.ac.jp 内線 7680										
授業の概要 マーケティングの基本的役割は、消費者や競争企業などの外的環境要因に適切に対応し、継続的に価値のある商品・サービスを創造することと考えられる。講義では、マーケティング論の成立過程を示し、新製品開発、価格政策、流通システム、消費者行動などを理論的に検討する。また、マーケティングによる競争優位性の確立と維持に関して、いくつかの産業や企業について事例研究を行う。さらに、環境マーケティングやブランド構築などの現代的テーマも検討する。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1 マーケティング理論を理解し、それらを説明できる。																
目標2 事例をマーケティングの視点から分析できる。																
目標3																
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1 マーケティングの基礎理論(1)																
2 マーケティングの基礎理論(2)																
3 マーケティングの基礎理論(3)																
4 Developing marketing strategies(1)																
5 Developing marketing strategies(2)																
6 Developing marketing strategies(3)																
7 Making marketing decisions(1)																
8 Making marketing decisions(2)																
9 Market oriented strategic planning(1)																
10 Market oriented strategic planning(2)																
11 Analyzing consumer market(1)																
12 Analyzing consumer market(2)																
13 事例研究(1)																
14 事例研究(2)																
15 Summary																
ラ ア ク ニ テ ン イ グ ブ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造		受講者はマーケティングに関するレポートを作成し、教員はその作成をサポートする。			工 夫 そ の 他 の	関連する時事問題は資料を配付する。									
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	テキストの内容について、事前学習を行うこと。(10h)														
	事後学修	学んだ理論に合うような現代的事例を経済誌や新聞で調べること。また、それらの事例に関する現状と課題を示すこと。(15h)														
教科書	Luiz Moutinho ,Strategic Marketing Management ,2007. 黒岩・水越『マーケティングをつかむ(新版)』有斐閣(2018年)															
参考書	Kotler and Keller, Marketing Management, Prentice Hall,2005.															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	レポート	100%														
注意事項	統計学を履修済みであることが望ましい。また、研究論文を積極的に読むこと。															
備考	新型コロナ対策のため、ZOOMでの授業になる場合があります。															
リンク	URL															

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式											
KD40M209		企業論特研(Company and Business Advanced Research)						対面											
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員													
選択	2		経済学研究科 博士後期	前期		氏名 河野憲嗣  E-mail kouno-kenji@oita-u.ac.jp 内線 7679													
授業の概要	企業が関与する現代社会の諸課題への理解を深めるとともに、社会的課題を解決するために企業が果たしうる役割について考察します。																		
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
目標1	事業、制度、社会といった概念との対比による企業への理解を深めることで、学位論文の主旨や課題を説明できる。																		
目標2																			
目標3																			
目標4																			
目標5																			
目標6																			
目標7																			
目標8																			
目標9																			
目標10																			
授業の内容																			
1	ガイダンス(受講者の研究計画などのヒアリング、授業の進め方の説明等)																		
2	企業と事業(講義、討論)																		
3	企業と制度(講義、討論)																		
4	受講者による研究報告、及び報告に基づいた解説、討論																		
5	受講者による研究報告、及び報告に基づいた解説、討論																		
6	受講者による研究報告、及び報告に基づいた解説、討論																		
7	企業と社会(講義、討論、現地調査)																		
8	企業と公共(講義、討論、現地調査)																		
9	企業と非営利組織(講義、討論、現地調査)																		
10	ケーススタディ(町家旅館を題材とした講義、報告、討論)																		
11	ケーススタディ(チェックランケーションを題材とした講義、報告、討論)																		
12	ケーススタディ(企業再建を題材とした講義、報告、討論)																		
13	受講者による研究報告、討論、今後の課題の整理																		
14	受講者による研究報告、討論、今後の課題の整理																		
15	受講者による研究報告、討論、今後の課題の整理 受講者数や進捗に応じて、内容を調整します。																		
ラ イ ク ニ テ ン イ グ	A:知識の定着・確認	論文や報告資料など成果物をアウトプットすることにこだわります。他学生や異なる環境の中で学ぶ機会を設けます。					工 夫 そ の 他 の	毎回の授業でコメントシートの提出を求めます。コメントシートを通じて、授業の中で対応できなかった質問や感想に答えます。											
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	事前に指示した課題について、口頭で報告できるよう調べてくる(事前30時間)																	
	事後学修	授業で言及した語句やテーマについて、文献などの原本をみて内容を確認する(事後15時間)																	
教科書	教科書は使用しません。必要に応じてスライドやプリントを使用します。																		
参考書	三戸公『家の論理1・2』文眞堂 1991年 岩田龍子『日本的経営の編成原理』文眞堂 2012年 その他、テーマに応じて適宜紹介します。																		
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10							
	レポート	50%																	
	平常点	50%																	
注意事項	ゲストスピーカーを招いたり、企業等へ現地調査に赴くことがあります。																		
備考	受講希望者は初回講義日前日までに必ず担当教員までメールで連絡してください。																		
リンク	URL																		

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の实務 経験	企業経営者、全国銀行協会、人事担当
実務経験を いかした教 育内容	ビジネスの実体と金融の側面から、社会的課題を解決する手段としての企業のあり方を解説する。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式								
KD40M210		比較経営史特研(Business History Advanced Research)						対面								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択	2		経済学研究科 博士後期	後期		氏名 渡邊 博子  E-mail watanabe-hr@oita-u.ac.jp 内線 7702										
授業の概要	本授業では、日本経営史にかかわる研究の一環として、日本の社会経済の発展過程をふまえたうえで、産業分析と企業の事例研究を数多く行います。特に、グローバル化の進展とその影響、プロダクトおよびプロセスイノベーションへの取り組みとその成果、日本独自の経営システムの生成と国際競争力向上への貢献などの視点から、産業や企業の成長過程を日本企業間および日本企業と欧米諸国やアジア諸国の企業との比較検討をしていきます。また、それらをもとに日本企業のこれからのあり方についても考えていきます。															
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	日本の社会経済の発展を理解したうえで、産業分析や企業比較、事例研究などを行う。															
目標2	当該分野の具体的な内容や成長過程について学修する。															
目標3	歴史や変遷をもとにこれからの企業のあり方や生き残り・発展戦略について考察する力を養う。															
目標4	自らの研究テーマや論文に関連づけられるようなアプローチの方法を理解する。															
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1	ガイダンス															
2	日本の社会経済の発展過程と産業および企業(1)															
3	日本の社会経済の発展過程と産業および企業(2)															
4	産業分析と企業の事例研究(1)															
5	産業分析と企業の事例研究(2)															
6	産業分析と企業の事例研究(3)															
7	企業のグローバル戦略の比較研究(1)															
8	企業のグローバル戦略の比較研究(2)															
9	企業のグローバル戦略の比較研究(3)															
10	企業のイノベーション戦略の比較研究(1)															
11	企業のイノベーション戦略の比較研究(2)															
12	企業のイノベーション戦略の比較研究(3)															
13	日本企業独自の経営システムの確立と国際競争力(1)															
14	日本企業独自の経営システムの確立と国際競争力(2)															
15	まとめと日本企業のこれからのあり方															
ラ ブ ク ニ テ ン イ グ レ ブ	A:知識の定着・確認	ディスカッション、プレゼンテーション、レポート、事例研究など。				工 夫 そ の 他 の	各テーマに関連した映像や新聞、雑誌、記事などの利用。									
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	各テーマに関する文献、関連する最新の新聞・雑誌記事、インターネット情報などの検索と学修(30時間)														
	事後学修	各テーマに関する学習の振り返りと理解(15時間)														
教科書	受講生との相談のうえ決定しますが、関連資料等は毎回配布します。															
参考書	授業の中で適宜紹介します。															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	授業時における報告や議論の内容	50%														
	課題対応やレポート内容	50%														
	以上のことをもとに総合的に評価します。															
注意事項																
備考	具体的な内容や進め方などについては、受講生の要望に応じて相談しながら決めていきたいと思います。															
リンク	URL															

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の実務 経験	シンクタンク研究員等
実務経験を いかした教 育内容	産業分析や関連する資料収集の仕方などの説明。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
KD20M202	管理会計論特研(Management Accounting Advanced Research)						対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択必修	2		経済学研究科 博士後期	後期	他	氏名 大崎 美 泉 E-mail yosaki@oita-u.ac.jp 内線 7699						
授業の概要	<p>管理会計は、マネジメントのための会計ともよばれるように、経営戦略の策定や経営管理の遂行に役立つ情報を提供するための会計です。グローバルに展開される企業間競争、株主の存在を意識した企業価値創造経営、ITを駆使したビジネス・プランニングの展開等経営環境の急激な変化に対応して、管理会計研究においても、企業戦略の構築に重点を置いた戦略的管理会計論が注目を集めています。本特研においては、このような戦略を重視した管理会計、さらには、病院マネジメントのツールとしての管理会計といった新しい展開だけでなく、これまで確立されてきた管理会計の体系的な理解も身につくようになります。</p>											
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10					
目標1	管理会計の理論と技法が理解できる											
目標2	管理会計の活用について理解できる											
目標3	医療マネジメントについて理解できる											
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	企業経営と会計											
2	管理会計の基礎概念											
3	管理会計の理論と体系											
4	レレバンス・ロストに見る管理会計の役割の変化											
5	企業における経営戦略の重要性											
6	経営戦略論の変遷											
7	現大企業の特徴的な経営戦略											
8	競争戦略と原価企画											
9	原価企画後の自動車業界の展開											
10	バランススコアカードの意義と活用											
11	国民医療と医療制度改革											
12	病院マネジメントにおける原価計算の活用											
13	DPCの影響											
14	戦略的病院経営と管理会計											
15	まとめ											
ラーニングポイント	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	積極的な意見交換により、専門知識の止揚に努めます。				工夫 その 他の	期末レポートによって、知識の定着を確実なものとしします。					
時間外学習の内容と時間の目安	準備 学修 事後 学修	関連図書による予習(15h) 企業や病院の経営における管理会計の役立ちについて考えること。(30h)										
教科書	受講生と相談の上、決定します。											
参考書	講義の中で、適宜紹介します。											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	授業や討論への参加度	30%										
	報告内容	20%										
	期末レポート	50%										
注意事項	他の会計関連の科目もあわせて履修することが望まれます。											
備考												
リンク	URL											

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の 実務 経験	5年間、地方銀行の社外取締役の任にあった。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名) 経営戦略論特研(Management Strategies Advanced Research)				区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択	2			後期	他	氏名 仲本 大輔 E-mail daichan@oita-u.ac.jp 内線 7714										
授業の概要	現代社会において企業は必要不可欠な存在となっていますが、その経営を考えていくうえで各企業が策定している経営戦略の内容などを経営戦略論で示されている理論枠組みで捉えていくことが大切です。本講義は、経営戦略論が提示してきた代表的な理論枠組みを把握しつつ、最新の理論の検討も進めていきます。また、修得した理論枠組みをもとに、何らかの事例についてのディスカッションもしていきたいと考えています。															
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1 経営戦略論が提示している様々な理論枠組みを修得する																
目標2 修得した理論枠組みに基づき、事例の分析や考察ができるようになる																
目標3																
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1 ガイダンス																
2 文献の輪読とディスカッション1																
3 文献の輪読とディスカッション2																
4 文献の輪読とディスカッション3																
5 文献の輪読とディスカッション4																
6 文献の輪読とディスカッション5																
7 文献の輪読とディスカッション6																
8 文献の輪読とディスカッション7																
9 文献の輪読とディスカッション8																
10 文献の輪読とディスカッション9																
11 文献の輪読とディスカッション10																
12 受講生による研究報告1																
13 受講生による研究報告2																
14 受講生による研究報告3																
15 まとめ																
ラ ア ク ニ テ ィ ン グ エ グ ラ フ	A:知識の定着・確認		B:意見の表現・交換		C:応用志向		D:知識の活用・創造		各受講生が関心を持つ事例について、講義時に各受講生がその内容を紹介し、何らかの理論枠組みに基づいて分析と考察も行ったものを発表し、それに対して教員や発表者以外の受講生を交えてディスカッションすることを考えています。		工夫 その 他の	企業経営に関連して社会からの関心が高まっているトピックについてのビジネス雑誌等の記事やコラムについて検討したり、映像資料を視聴したりすることも考えています。				
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	毎回教材を読んでください。また、発表担当回はレジュメを作成してください(各回2h)。														
	事後学修	毎回、復習をしてください(各回1h)。														
教科書	受講生と相談のうえで決定します。															
参考書	適宜紹介します。															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	平常点	80%														
	期末レポート	20%														
注意事項	・報告者以外の受講生も毎週、教材を読んでください。 ・上記の授業の内容は例示であり、受講者数、および各受講者のバックグラウンドや関心を持っている研究テーマなどをふまえ、輪読の回数などを変更する可能性															
備考																
リンク	URL															



ナンバリング		授業科目名(科目の英文名) 経営組織論特研(Organization Theory Advanced Research)				区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択	2		経済学研究科 博士後期	後期	他	氏名 本谷るり E-mail motoya@oita-u.ac.jp 内線											
授業の概要	現代社会において組織を十分に活用することによって、困難と考えられる事柄も実現の可能性が高まる。それにより社会を豊かに成長させることができるが、同時にそれを阻む多数の課題も発生する。本授業では、社会の構成単位としての組織を対象として、その形成、維持、発展、継続について諸理論を踏まえ、事例を取り上げながら議論する。																
具体的な到達目標		DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 企業組織に関する諸理論への理解を深め、組織の面から企業分析や事例研究を行う																	
目標2 自身の研究に、組織の観点を活用できる																	
目標3																	
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1 ガイダンス																	
2 1.組織の個人・集団に関する理論(1)																	
3 1.組織の個人・集団に関する理論(2)																	
4 1.組織の個人・集団に関する理論(3)																	
5 1.についての受講生による事例分析																	
6 2.組織とメンバーの関係に関する理論(1)																	
7 2.組織とメンバーの関係に関する理論(2)																	
8 2.についての受講生による事例分析																	
9 3.組織をとりまく外部環境に関する理論(1)																	
10 3.組織をとりまく外部環境に関する理論(2)																	
11 3.についての受講生による事例分析																	
12 4.組織と環境のダイナミクスに関する理論(1)																	
13 4.組織と環境のダイナミクスに関する理論(2)																	
14 4.組織と環境のダイナミクスに関する理論(3)																	
15 4.についての受講生による事例分析																	
ラ ア ク ニ テ ン イ グ レ ブ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	授業でのプレゼンテーション、ディスカッション、事例研究、レポート作成等				工 夫 そ の 他 の											
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修 事後学修	文献(関連する他の文献、雑誌記事等含む)のプレゼンテーション準備(30h) 内容の振り返り、その他の文献の収集と読み込み(15h)															
教科書	組織学会編(2013)『経営組織論レビュー』白桃書房。 上記文献はシリーズで まで発刊されており、この4冊を中心に関連する文献もあわせて用います。																
参考書	授業時に提示します。																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	授業時のプレゼンテーション、ディスカッション	50%															
	レポートの作成	50%															
注意事項																	
備考	進め方としては、組織に関する諸課題について、受講生による文献の講読とプレゼンテーション、事例分析を中心におこないます。																
リンク	URL																

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
KD20R200	自治体経営論特研(Local Government Management Advanced Research)						対面										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択必修	2		経済学研究科 博士後期	後期	他	氏名 高 島 拓 哉  E-mail tataka@oita-u.ac.jp 内線 7678											
授業概要	<p>従来「都市経営論」または「自治体経営論」とよばれてきた分野は、今日ではNew Public Management(NPM)などの新しい議論に引き継がれ、再構築されつつある。その性格は当初のサッチャーリズムなどに見られたものからバージョンアップを遂げつつあり、今日では必ずしも新自由主義、ニューライトなどよばれる流れに親和的であるとは言えず、イギリスのブレア政権時代の医療費への予算増額や、アメリカのスマート・グロース政策による規制強化の傾向をもその具体化として理解することができるものとなっている。</p> <p>また、ソーシャル・キャピタル論のように、コミュニティの信頼とネットワークの絆を数値で把握する試みなど、従来であれば規範的な論議に終始したものが、政策科学的具体的な到達目標</p>																
具体的到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	テキストとして、課題に関連する文献をとりあげつつ、様々な角度からNPMなどの自治体経営論とその課題について考察する。																
目標2																	
目標3																	
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1	NPMと新自由主義																
2	サービスにおけるコスト・質・効率																
3	公民コスト比較と外部経営への展開																
4	風力発電と低周波空振動被害																
5	コンパクトシティ																
6	市町村合併と広域行政																
7	男女共同参画																
8	コミュニティと地域住民組織																
9	ごみ問題とアノミー																
10	バリアフリーと「見えない障害」																
11	社会福祉改革の制度設計(1)																
12	社会福祉改革の制度設計(2)																
13	行政改革の原理的考察(1)																
14	行政改革の原理的考察(2)																
15	まとめ																
ラーニング	A:知識の定着・確認	第9回では実際の製品を提示して、分別区分がいずれになるかを考えてもらう。														工夫	その他の
	B:意見の表現・交換																
	C:応用志向																
	D:知識の活用・創造																
時間外学習の内容と時間の目安	準備	学位論文作成に必要な文献を読み、資料ごとに研究ノートをまとめる(3h)															
	事後	調査・分析結果を文章化する(4h)															
教科書	そのつど文献等を共有したい。																
参考書	確井敏正・大西広編(2014)『成長国家から成熟社会へ』花伝社。新藤宗幸(2020)『新自由主義にゆがむ公共政策』朝日新聞出版。尾林芳匡(2020)『自治体民営化のゆくえ』自治体研究社。尾林芳匡ほか編(2009)『PF1神話の崩壊』自治体研究社。尾林芳匡ほか編(2018)『水道の民営化・広域化を考える』自治体研究社。																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	最終レポート	100%															
注意事項																	
備考																	
リンク	URL																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
KD20R201		地域産業構造論特研(Advanced Research on Regional Industry and Development)						対面									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択必修	2		経済学研究科 博士後期	前期		氏名 宮 町 良 広  E-mail ymiya@oita-u.ac.jp 内線 7684											
授業概要	<p>本授業では、地域経済を主導する産業の構造的特性を考察し、地域経済が動態的發展を実現するための道筋を研究します。経済のグローバル化が急速に進展するなかで、地域の産業や経済がどのような影響を受け、一方で適応しているのかを、日本や欧米諸国の地域産業のさまざまな事例に依拠して実証的に解明します。理論面ではレギュレーション理論が提示した地域的調整様式の考え方を採用します。</p> <p>地域産業構造や地域経済発展に関する諸問題について、文献講読や講義、受講生による報告を中心に行う予定ですが、具体的な進め方については、受講生の研究履歴や関心度をうかがった上で決定します。</p>																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	地域産業構造や地域経済発展に関する諸問題について理解し、受講生自身の研究にその内容を活用できる。																
目標2																	
目標3																	
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1	イントロダクション																
2	地域産業構造や地域経済発展に関する文献講読																
3	地域産業構造や地域経済発展に関する文献講読																
4	地域産業構造や地域経済発展に関する文献講読																
5	地域産業構造や地域経済発展に関する文献講読																
6	地域産業構造や地域経済発展に関する文献講読																
7	地域産業構造や地域経済発展に関する文献講読																
8	地域的調整様式に関する文献講読																
9	地域的調整様式に関する文献講読																
10	地域的調整様式に関する文献講読																
11	受講生による地域産業構造に関する文献紹介・報告																
12	受講生による地域産業構造に関する文献紹介・報告																
13	受講生による地域産業構造に関する文献紹介・報告																
14	受講生による地域産業構造に関する文献紹介・報告																
15	受講生による地域産業構造に関する文献紹介・報告																
ラーニング	A:知識の定着・確認	論文プレゼン、質疑応答、意見共有、受講生の報告を通じた自主的研究の促進					工夫	その他の									
	B:意見の表現・交換																
	C:応用志向																
	D:知識の活用・創造																
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	文献学習、報告準備(10h)															
	事後学修	まとめ作成(5h)															
教科書	<p>受講生と相談の上で決定しますが、候補として下記のものがあります。</p> <p>矢田俊文編『国土政策論(下)』原書房・2023年。</p> <p>伊東維年編『グローバル時代の地域研究』日本経済評論社、2017年。</p>																
参考書																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	報告内容など	100%															
注意事項																	
備考																	
リンク																	
	URL																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
		交通論特研(Advanced Research of Transport Theory)														
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択	2	博士後期 1,2,3年次	経済学研究科 博士後期課程	前期	他	氏名 大井 尚司  E-mail ooi-hisashi@oita-u.ac.jp 内線 7697 (連絡はメールをお願いします)										
授業の概要	交通(受講生の専門によっては観光・公益事業の分野も対象に含む)に関する経済学あるいは政策的分析に資する分析手法・理論・政策について、博士論文や学術研究において使えるレベルの文献等を読み解き、研究で使えるに引き上げることを狙いとして講義を展開する。															
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1 交通・地域問題・観光・公益事業の分野に使える分析手法を理解する																
目標2 受講生が設定した課題に対し理論面からの考察と課題設定ができる																
目標3																
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1 イントロダクション(基礎能力の確認を含む)																
2 需要に関する経済理論とその応用(経済学復習)																
3 需要に関する経済理論とその応用(需要の価格弾力性、需要関数など)																
4 需要に関する経済理論とその応用(現実への応用例)																
5 供給に関する経済理論とその応用(経済学復習)																
6 供給に関する経済理論とその応用(費用関数など)																
7 供給に関する経済理論とその応用(価格設定など)																
8 供給に関する経済理論とその応用(現実への応用例)																
9 政策評価の手法(費用便益分析など)																
10 政策評価の手法(現実への応用例)																
11 政策・計画の手法について(政策の整理)																
12 政策・計画の手法について(政策分析について)																
13 政策・計画の手法について(現実への応用例)																
14 現実のトピックスなどの紹介																
15 まとめ																
ラ ア イ ニ テ ン イ グ レ ブ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	講義は反転授業のような形態を想定している(学生の研究テーマ等に合わせた文献を選択し、それを学生自らまとめ調べたうえで講義内で説明し、講師がその内容を補足するスタイルを予定)。そのため基本的には受講生主導の講義形態になる。				工 夫 そ の 他 の	講師からの一方通行的な講義は極力避け、受講生自体が主体的に理解を深めるべく、反転授業的なやり方の導入を考えている。政策形成の現場にいるので、必要な情報は随時提供することで、現実への理解を深める。									
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修 事後学修	講義準備として、指定文献の読解、不明部分の調査、レジュメ作成を行う必要がある(おおむね2~3時間/週程度) 講義で説明された内容を受けての復習、自らの研究に活かす内容の確認・整理を行っていただきたい(おおむね1時間/週以上)														
教科書	受講生の研究分野を確認して随時指定する(外国語の書籍・論文も含む可能性あり)															
参考書	受講生の研究分野を確認して随時紹介する(外国語の書籍・論文も含む可能性あり)															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	講義内の発表内容	50%														
	受講生が作成した講義資料の内容	50%														
2項目は関連するので総合的に評価する																
注意事項	「授業の内容」で示した内容は、標準的な交通経済学(大学院レベル)のトピックスを参考までに紹介したものである。受講生の研究分野(専門)によっては文献を変え、内容が大きく変わる可能性もある。															
備考	受講生の研究分野によっては、研究論文(先行研究で使うもの)の発表を行うことも可とする。詳しくは1回目の講義で受講生と確認して決定する															
リンク	URL															

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の 実務 経験	旅行会社・政府系研究機関での勤務経験、行政や政府の審議会委員多数
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無	
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	場合によっては講師の研究室卒業生（実務経験あり）を呼んで講義する可能性もある
実務経験を いかした教 育内容	旅行会社・政府系研究機関での勤務経験、行政や政府の審議会委員で得られた知識を適宜提供する

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名) 農村発展論特研(Rural Development Advanced Research)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式															
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員																
	2	博士後期課程	経済学研究科	前期	他	氏名 山浦 陽一 E-mail yamaur@oita-u.ac.jp 内線 7688																
授業の概要	農村が抱える問題は、多様かつ複雑だが、近年その解決に取り組む母体として、「地域運営組織」の設立が進んでいる。今後の農村の活性化のプラットフォームとしての役割が期待され、高齢者の見守りやサロン事業、都市との交流などに一定の成果が見られる。他方で、活動のマンネリ化や組織の形骸化、事務局の負担増加などの問題も生じている。この講義では、農村における地域運営組織の現状を理解した上で、求められる対策について考え、さらにフィールドワークも行い、実践にもかかわる。																					
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)										1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
目標1	農村における地域運営組織についての理解を深める。																					
目標2	文献購読や統計資料整理を通じて論文作成のスキルを高める。																					
目標3	プレゼンやワークショップを通じて、表現力、論理的思考力を高める。																					
目標4																						
目標5																						
目標6																						
目標7																						
目標8																						
目標9																						
目標10																						
授業の内容																						
1	ガイダンス																					
2	コミュニティづくりのための組織論(『協働と参加』第1部)																					
3	実践に学ぶ地域自治(『』第2部)																					
4	実践に学ぶ地域自治(『』第3部)																					
5	今後の展望と課題(『』第4部)																					
6	地域自治の仕組みはなぜ必要なのか(『地域自治のしくみづくり実践ハンドブック』第1部)																					
7	地域自治のしくみをどう設計するか(『』第2部)																					
8	実践に学ぶ(『』第3部)																					
9	テキスト振り返り・まとめ																					
10	フィールドワーク準備																					
11	フィールドワーク(RMO活動参加)																					
12	フィールドワーク(RMO形成会議参加)																					
13	フィールドワーク振り返り																					
14	課題整理と解決策の準備																					
15	RMOの課題と展望についてのプレゼン・振り返り・まとめ																					
ラ ア ニ テ ン イ グ レ ブ	A:知識の定着・確認	講義中はペアワーク、グループワークを積極的に取り入れます。学生同士でお互いに説明し、また議論をすることで、理解を深めてもらうことを目指します。					工 夫 そ の 他 の	座学、フィールドワークを組み合わせることで、学習効果を高めます。														
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	テキストを読み、内容の要約、論点の整理、プレゼン準備。																				
	事後学修	講義中にできなかった質問の回答準備。																				
教科書	金川・後・森・洪編著『協働と参加』見洋書房、2021年、237頁。 中川幾郎編著『地域自治のしくみづくり実践ハンドブック』学芸出版社、2022年、204頁。																					
参考書	指定しない。																					
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10										
	講義中の発表・発言内容	100%																				
注意事項	講義開始前にテキストを準備、第1回目に持参。平日の夜間、もしくは土日にフィールドワークを予定している。フィールドワークの移動は各自で手配する。																					
備考	毎回50～100頁のテキストを読む。またプレゼンやワークショップまで行うため、準備にはかなりの時間が必要となる。毎回全員が発表するので、全員が資料の読み込み、発言の準備等、毎週一定の準備が必要である。受講者の人数や要望に応じて、運営方法を変更することがある。																					
リンク	URL																					

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の实務 経験	地域運営組織の設立、活動計画策定、市役所、県庁の施策検討、研修講師等

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
KD20E202		労使関係論特研(Industrial Relations Advanced Research)					対面										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択必修	2	1,2	経済学研究科 博士後期	後期	他	氏名 石井 まこと  E-mail mak@oita-u.ac.jp 内線 7698											
授業の概要	労使関係論が取り扱うテーマについて、良質の研究論文を読み込み、通説を批判的に検討できるようにする。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 研究論文のエッセンスをコンパクトにまとめることができる。																	
目標2 通説に対しての評価ならびに批判的な検証・検討ができる。																	
目標3 日本の労使関係論の議論状況を理解できる。																	
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1 ガイダンス																	
2 労働時間と労使関係																	
3 ワークシェアリングと労組																	
4 労働時間短縮と労組																	
5 労働時間の国際比較																	
6 新自由主義と労働再規制																	
7 企業社会論																	
8 規制緩和																	
9 非正規雇用問題																	
10 社会運動ユニオニズム																	
11 個別労使紛争問題																	
12 ワークフェア社会																	
13 社会保障制度と企業社会																	
14 比較福祉国家論と労使関係																	
15 総括																	
ラーニング	A:知識の定着・確認	受講生と文献・資料に関して議論し、批判的検討を行うことで論点を深める。				工夫	その他の										
	B:意見の表現・交換																
	C:応用志向																
	D:知識の活用・創造																
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	講義時に指示をする。															
	事後学修	講義時に指示をする。															
教科書	受講者と相談の上、決定する。																
参考書	随時、提示する。																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	授業時の発言・報告状況	50%															
	期末レポート	50%															
注意事項																	
備考																	
リンク																	
	URL																



ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
KD20E203		経済政策論特研(Theory of Economic Policy Advanced Research)																
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
選択	2	1, 2, 3		後期	他	氏名 高見博之 E-mail htakami@oita-u.ac.jp 内線 7674												
授業の概要	この講義では、経済政策の効果を理論的に分析するために必要なミクロ経済学、マクロ経済学、および経済数学の分析道具についての理解を深めることを目的とします。経済政策やゲーム理論などの分析手法に関わる専門文献の輪読を通じて、受講生自身の研究との関連づけを検討します。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 ミクロ経済学、マクロ経済学の分析道具について、専門文献でどのように利用されているかを理解し、研究に反映できる。																		
目標2 ゲーム理論の分析道具について、専門文献でどのように利用されているかを理解し、研究に反映できる。																		
目標3																		
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1 ガイダンス																		
2 経済政策やゲーム理論などの分析手法に関わる専門文献の輪読																		
3 経済政策やゲーム理論などの分析手法に関わる専門文献の輪読																		
4 経済政策やゲーム理論などの分析手法に関わる専門文献の輪読																		
5 経済政策やゲーム理論などの分析手法に関わる専門文献の輪読																		
6 経済政策やゲーム理論などの分析手法に関わる専門文献の輪読																		
7 経済政策やゲーム理論などの分析手法に関わる専門文献の輪読																		
8 経済政策やゲーム理論などの分析手法に関わる専門文献の輪読																		
9 経済政策やゲーム理論などの分析手法に関わる専門文献の輪読																		
10 経済政策やゲーム理論などの分析手法に関わる専門文献の輪読																		
11 経済政策やゲーム理論などの分析手法に関わる専門文献の輪読																		
12 経済政策やゲーム理論などの分析手法に関わる専門文献の輪読																		
13 経済政策やゲーム理論などの分析手法に関わる専門文献の輪読																		
14 経済政策やゲーム理論などの分析手法に関わる専門文献の輪読																		
15 経済政策やゲーム理論などの分析手法に関わる専門文献の輪読																		
ラ イ ク ニ テ ン イ グ	A:知識の定着・確認	文献の報告の後、内容について議論します。					工 夫	そ の 他 の										
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	講義で報告する文献の予習。(1回 2h)																
	事後学修	講義内容を基に関連文献の講読。(1回 1h)																
教科書	講義中に指示します。																	
参考書	『現代経済学の潮流』東洋経済新報社、各年版。 『ゲームと情報の経済学』勁草書房、2006年、ISBN 97-4326547821 講義中にも指示します。																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10						
	講義時の報告内容・議論の状況	70%																
	学期末レポート	30%																
注意事項	受講の際は、学部レベルの微分の知識が必要となります。																	
備考																		
リンク	URL																	

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
KD40E207		経済史特研(Economic History Advanced Research)						対面										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
選択	2		経済学研究科 博士後期	後期	他	氏名 市原 宏一 E-mail ich@oita-u.ac.jp 内線 7719												
授業の概要	この講義では、現代経済社会を成立させた工業化過程の特徴について、先進地域と周辺地域との比較を行い、近代的経済社会形成の歴史的前提条件とその意義を明らかにすることをめざしている。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	ヨーロッパ地域を対象とした工業化の比較研究に関する先行成果を整理する																	
目標2	農村社会の経済構造に関する文献史料分析に従事する																	
目標3	経済交流を証す考古学研究成果を整理する																	
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1	前近代ヨーロッパ定住史研究概観(都市的集落)																	
2	前近代ヨーロッパ定住史研究概観(都市的集落)																	
3	前近代ヨーロッパ定住史研究概観(都市的集落)																	
4	前近代ヨーロッパにおける定住史研究概観(農村定住地)																	
5	前近代ヨーロッパにおける定住史研究概観(農村定住地)																	
6	前近代ヨーロッパにおける定住史研究概観(農村定住地)																	
7	中世バルト海沿岸地域における定住と社会																	
8	中世バルト海沿岸地域における定住と社会																	
9	中世バルト海沿岸地域における定住と社会																	
10	バルト海北部における定住と社会																	
11	バルト海北部における定住と社会																	
12	バルト海北部における定住と社会																	
13	バルト海南部における定住と社会																	
14	バルト海南部における定住と社会																	
15	バルト海南部における定住と社会																	
ラック ニティ ゲブ	A:知識の定着・確認	使用文献の訳出と内容の理解、授業課題に関連する複数の先行研究についての調査と文献リストづくり等					工 夫 そ の 他 の											
時間外学修 の内容と時 間の目安	準備 学修	自身の関心に基づく課題に関して、先行研究などの調査、翻訳などを行ったうえで、要旨を作成する。5h																
	事後 学修	講義内での、教員およびほかの院生からの指摘を踏まえて、報告要旨の修正を行い、さらに、先行研究などの調査、翻訳などを加える。5h																
教科書	外国語文献を使用するが、講義の際に説明。																	
参考書	外国語文献を使用するが、講義の際に説明。																	
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10						
	分担した回の授業での報告内容	70%																
	最終レポート	30%																
注意事項	外国語文献(英語ないしドイツ語)を受講者相互に分担して報告する。																	
備考																		
リンク																		
	URL																	

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
KD40E205	国際政治論特研(Using Political Science to understand Organizational Change Advanced Research)						対面										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択	2		経済学研究科 博士後期	前期	他	氏名 デイ スティーブン E-mail sriday@oita-u.ac.jp 内線 6676											
授業の概要	The goal of this module will be to investigate the role and significance of political parties. As a fundamental part of any political system it is necessary to understand the dynamics that have driven the development of parties at the level of the nation state. At the same time, in an era of multi-level governance it is also necessary to ask whether political parties should play a role at the regional and global level. This module will also look at 'parties in action' via recent elections and the rise of populism.																
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	Develop an understanding of party-system and political party formation																
目標2	Identify what agency-based and structural based factors influence the evolution of political parties																
目標3	Critically evaluate different types of political parties and party systems																
目標4	Build the necessary confidence to engage with and analyze events as they happen																
目標5	Develop an analytical ability to cogently speculate about the future development of political parties																
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1	Introduction: The study of political parties and party systems																
2	The development and role of political parties – from the cadre-type party to the mass party																
3	The development and role of political parties – from the mass party to the cartel party																
4	Political parties at the regional level – Europarties 1975-2003																
5	Political parties at the regional level – Europarties 2004-present day																
6	Political parties at the global level																
7	Case Study: Regime change and the process of democratization																
8	Case Study: Liberal Democracy and political parties																
9	Case Study. What is populism?																
10	Case Study. Populist parties in Europe																
11	Case Study. Populist parties beyond Europe																
12	Case Study. US party politics in an era of turbulence																
13	Case Study. Government and Opposition in Japan																
14	Case Study. The European Parliament elections since 2009																
15	Are political parties worth saving?																
ラ ア ク ニ テ ン イ グ レ ブ	A:知識の定着・確認	As an interactive class there will be a number of individual and small-group task-based exercises. This will include: quizzes, exercises in applying theory to real-world scenarios and evaluating a wide range of media reports.					工 夫 そ の 他 の										
時間外 の内容と 時間 の目安	準備 学修	30 hours - In order to consolidate the class-based material read specific chapters from the text book as well as a number of newspaper articles that will be provided in class.															
	事後 学修	15 hours - Reflect on the issues raised in the class discussion by writing a brief academic diary to be presented at the next class. Work towards structuring and writing the assigned essay.															
教科書	Alan Ware (1996) Political Parties and Party Systems, Oxford: Oxford University Press. ISBN: 0198780761 Cas Mudde and Cristóbal Rovira Kaltwasser (Eds. 2012) Populism in Europe and the Americas: Threat or Corrective for Democracy? (Cambridge University Press). ISBN: 110769986X																
参考書	Additional material will be distributed during the module																
成績 評価 の 方法 及び 評価 割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10					
	Essay	50%															
	Portfolio	30%															
	Class-based exercises	20%															
注意事項	The determination to study political issues in English and a willingness to participate in classroom based activities																
備考	A willingness to engage in critical thinking as we make use of a plethora of different source material: newspaper, academic journals, video and web-based material etc.																
リンク	URL																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
KD40E206		現代社会分析論特研(Contemporary Socio-Analytic Studies Advanced Research)					対面										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択	2	1、2	経済学研究科 博士後期	後期	他	氏名 豊島 慎一郎 E-mail stoy@oita-u.ac.jp 内線											
授業の概要	本講義は、文献やデータ(資料)を深く読み込み、論理を組み立てて、社会現象が発生する要因やメカニズムを明らかにし、そして人びとにとって望ましい社会の仕組みやあり方を構想する力を修得することを目的とする。主に社会階層論やボランティア・NPOに関する文献を用いて、社会学理論と実践・政策を接続する形で授業を展開していく。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 社会学に関する専門的知識や応用力を修得する。																	
目標2 報告および議論を通して理解を深める。																	
目標3																	
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1 オリエンテーション																	
2 報告および議論1																	
3 報告および議論2																	
4 報告および議論3																	
5 報告および議論4																	
6 報告および議論5																	
7 報告および議論6																	
8 報告および議論7																	
9 報告および議論8																	
10 報告および議論9																	
11 報告および議論10																	
12 報告および議論11																	
13 報告および議論12																	
14 報告および議論13																	
15 総論																	
ラーニング ポイント ニ ン イ グ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	受講生は、指導教員が指示した文献について報告し、それを基に議論を行う。受講生はレジュメを作成し、要約および内容に関するコメントを報告する(毎回)。				工夫 その 他の											
時間外学修 の内容と時 間の目安	準備 学修	論文等を事前に読み、レジュメを作成する(22h)。															
	事後 学修	論文等を用いて復習する(23h)。															
教科書	文献(英語論文、調査論文あり)は適宜指示する。																
参考書	文献(英語論文、調査論文あり)は適宜指示する。																
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10					
	報告および議論	100%															
注意事項	本講義の内容と博士論文のテーマが関連している者の履修を希望する。 社会学に興味関心のある者の履修を希望する。																
備考																	
リンク																	
	URL																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
KD20E201		計量経済学特研(Econometrics Advanced Research)						対面										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
選択	2	博士後期課程	経済学研究科 博士後期課程	前期	他	氏名 下田 憲雄 E-mail nshimod@oita-u.ac.jp 内線 7683												
授業の概要	計量経済の分析手法の習得に力点を置く。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	計量経済学の基本的な分析手法を理解し、経済理論モデル等へ適用する。																	
目標2																		
目標3																		
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1	計量経済学の基本分析 1																	
2	計量経済学の基本分析 2																	
3	推定結果の理解 1																	
4	最小二乗法とBLUE																	
5	加重最小二乗法																	
6	一般化最小二乗法																	
7	パネルデータによる一般最小二乗法 1																	
8	パネルデータによる最小二乗法 2																	
9	プロビットモデル																	
10	最尤法																	
11	最尤法によるプロビットモデルの推計																	
12	順序ロジットモデル																	
13	多項ロジットモデル																	
14	トービットモデルとヘーキットモデル																	
15	非線形モデルの実証分析の実例																	
ラ イ ク ニ テ ン イ グ	A:知識の定着・確認	研究テーマや内容のディスカッション					工 夫 そ の 他 の	パソコンによるソフトの活用										
準備 学修	テキストの事前勉強 (30h)																	
事後 学修	課題等による事例の理解 (15h)																	
教科書	計量経済学 山本勲																	
参考書	エコノメトリックス 伴金美 他著 有斐閣2006年 Introductory Econometrics																	
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10						
	レポート、報告	100%																
注意事項	統計学、計量経済学の基礎的知識が必要																	
備考																		
リンク	URL																	

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
KD40E204		国際金融論特研(International Finance Advanced Research)																
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
選択	2	博士後期課程	経済学研究科	前期	他	氏名 小笠原 悟 E-mail ogasawara 内線 7713												
授業の概要	1980年代以降、規制緩和と技術革新を背景に、経済・金融のグローバル化が進み、国境を超えた経済・金融取引は大きく拡大してきました。しかし、その一方で、急激な信用拡大とその縮小は国際金融システムを不安定化させ、世界的な金融危機へと広がるケースも増えています。従来、金融危機が発生した場合には、中央銀行が積極的な金融緩和で対応すればよいという考え方が主流でしたが、近年はその処理に巨額な公的資金が投入されるようになり、危機を起ささないためには平時から金融システムの安定性の確保が重要であると認識されるようになってきました。この授業では、不安定化する国際金融システムについて、その要因を明かにするとともに、各国金融当局がどのような対応をしてきたのか、概観します。そして国際金融システムの安定に関する論点を検討し、金融危機を防ぐには何が重要と考えられるようにします。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 マクロ金融政策とブルーデンス政策の関係を理解する																		
目標2 国際金融システムの安定化について批判的に思考できる能力をつける																		
目標3																		
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1 ガイダンス																		
2 マクロ金融政策の基礎																		
3 金融システムとブルーデンス政策																		
4 金融システムの構造変化																		
5 Great Moderation (大いなる安定)																		
6 規制緩和の進展																		
7 金融危機の歴史																		
8 リーマンショックの発生とその要因																		
9 リーマンショック後の規制改革																		
10 規制強化																		
11 欧州債務危機の発生とその対応																		
12 米国の非伝統的金融政策と出口政策																		
13 日本の課題																		
14 中国へのインプリケーション																		
15 まとめ																		
ラ	A:知識の定着・確認	担当を決め、担当回のテーマについて発表します。					工	その他の										
ク	B:意見の表現・交換																	
ニ	C:応用志向																	
テ	D:知識の活用・創造																	
ン																		
グ																		
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	事前にテキストをよく読んでおくこと(30h)																
	事後学修	授業で取り扱ったテーマについて理解を深めるために、関連する記事や論文をリサーチする(15h)																
教科書	翁 百合 『不安定化する国際金融システム』NTT出版 2014年																	
参考書	授業中に指示します																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10						
	授業態度	50%																
	課題レポート	50%																
課題レポートの内容については授業中に指示します。																		
注意事項	受講者のバックグラウンド、理解度に合わせて内容を変更する場合があります。																	
備考																		
リンク	URL																	

教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無	
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	エコノミスト、為替ストラテジスト
実務経験を いかした教 育内容	外資系金融機関でエコノミスト、為替ストラテジストとしての経験を有する教員が、グローバルな視点から実体経済と金融の関係について解説する。

授業科目名 (科目の英文名)					専攻・コース
多言語多文化共生社会論特研 (Multilinguistic and multicultural Symbiotic Societies Advanced Research)					
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
選択	2	博士後期 1.2.3	前期	他	包 聯群 (Lianqun BAO) E-mail blianqun@oita-u.ac.jp 内線 7724
授業の概要	本特研では、「多言語多文化共生社会」への理解を一層深めることを目標とする。そのため、まず、世界の多言語多文化社会を対象とし、言語と文化の多様性とは何か、企業の多言語状況、多文化政策などを把握し、グローバル化社会への理解を深め、多言語社会への適応能力を向上していくことを目指す。				
具体的な到達目標					
目標 1	「多言語多文化共生社会」とは何かを理解すること。				
目標 2	受講者が自分の研究テーマに関連付けて「多言語多文化共生社会」の役割を評価できること。				
目標 3	「多言語多文化共生社会」を通じて、地域活動への参与意識と理解を深めること。				
目標 4					
目標 5					
目標 6					
目標 7					
目標 8					
目標 9					
目標 10					
授業の内容					
1	ガイダンス				
2	「多言語多文化共生社会」関連書籍の購読 1				
3	ディスカッション (1)				
4	「多言語多文化共生社会」関連書籍の購読 2				
5	ディスカッション (2)				
6	「多言語多文化共生社会」関連書籍の購読 3				
7	ディスカッション (3)				
8	研究テーマ及び本課題に関連する論文を講読 1				
9	事例報告 (1)				
10	研究テーマ及び本課題に関連する論文を講読 2				
11	事例報告 (2)				
12	研究テーマ及び本課題に関連する論文を講読 3				
13	発表、報告 (3)				
14	ディスカッション、コメント				
15	まとめ				
アクティブ ラーニング	A.知識の定着		関連書籍、論文を読むことによって、授業で学んだ知識を定着させる。また、ディスカッションを通じて、意見交換を行い、応用に向けて知識の共有を実現し、地域の活動に参与する意識、創出力を養うよう努める。		その他の 授業の工夫
	B.意見の表現・交換				
	C.応用志向				
	D.知識の活用・創造				
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	関連データの収集と閲覧、予習時間 (15h)			
	事後学修	関連課題の復習時間 (15h)			
教科書	1. 随時指示する 2. その他 (資料配布)。				
参考書	1. 『多言語社会日本 その現状と課題』。多言語化現象研究会編、2013年、三元社。 2. 『多言語・多文化社会へのまなざし—新しい共生への視点と教育』。赤司英一郎/荻野文隆 /松岡栄志編、2008年、白帝社。 3. 『多言語社会がやってきた』(世界言語政策 Q&A)。河原俊昭 /山本忠行編、2004年、くろしお出版。 4. 『世界の言語政策 第3集—多言語社会を生きる—』。山本忠行 /河原俊昭編、2010年、くろしお出版。				
成績評価 の方法 及び 評価 割合	評価方法			割合	
	発表、ディスカッションなど			50%	
	期末レポート			50%	
				%	
注意事項					
備考					
リンク	URL				
担当教員の実務経験の有無	有	東京のある大学にて、大学院の授業を担当した経験を持つ。			
教員の実務経験	有				
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者		海外のある大学の博士論文を審査した経験を持つ。			
実務経験を いかした教育内容					





ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式											
KD10M130	マーケティング論演習(Marketing Seminar)						対面											
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
必修	2	1	経済学研究科 博士後期	前・後		氏名 松 隈 久 昭  E-mail himatsu@oita-u.ac.jp 内線 7680												
授業の概要	本演習では、マーケティング論の理論を体系的に習得し、学生の研究課題に沿った分析を行う。マーケティング論の主な内容は、新製品開発、価格政策、流通システム、販売促進活動、消費者行動からなるが、まずは基本的文献により、それらの体系的な理解に努める。次に、研究テーマに関する専門書や学術論文の検討を行い、研究計画に基づいて文献収集とアンケート調査等によりデータ収集を進める。そして、データ処理のための分析方法を学び、論文の作成を進める。																	
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
目標1	マーケティング理論を説明できること。																	
目標2	事例研究をできること。																	
目標3																		
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1	マーケティング理論(1)																	
2	マーケティング理論(2)																	
3	マーケティング理論(3)																	
4	マーケティングリサーチの理解(1)																	
5	マーケティングリサーチの理解(2)																	
6	マーケティングリサーチの理解(3)																	
7	文献研究(1)																	
8	文献研究(2)																	
9	文献研究(3)																	
10	事例研究(1)																	
11	事例研究(2)																	
12	事例研究(3)																	
13	論文の作成(1)																	
14	論文の作成(2)																	
15	まとめ																	
ラーニング	A:知識の定着・確認	B:意見の表現・交換		C:応用志向		D:知識の活用・創造	受講者は博士論文に関するレポートを作成し、教員はその作成をサポートする。	工夫 その 他の	関連する時事問題は資料を配付する。									
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	テキストを読んで、予習を行うこと(10h)。																
	事後学修	テキストを読んで、博士論文に利用できるところを整理すること(10h)。																
教科書	Philip Kotler・Kevin Lane Keller, Marketing Management, Twelfth Edition, Prentice-Hall, 2006. 黒岩・水越『マーケティングをつかむ(新版)』有斐閣(2018年)																	
参考書	小笠原『最新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社(2018年) Journal of Marketing																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10						
	レポート	100%																
注意事項	英語の研究論文を読むので、十分な準備時間が必要です。																	
備考	新型コロナ対策のため、ZOOMでの授業になる場合があります。																	
リンク	URL																	

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
KD10M148	企業論演習(Company and Business Seminar)						対面										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
必修	2		経済	前・後		氏名 河野憲嗣 E-mail kouno-kenji@oita-u.ac.jp 内線 7679											
授業の概要	企業に関する言説や企業で起きている事象を対象とする研究、および社会イノベーションに対する企業の可能性に関する研究の指導を行います。																
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	企業を題材とした多面的な考察や研究を通じて、自らの課題設定や独自性を検証し、学位論文の作成に活用できる。																
目標2																	
目標3																	
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1	ガイダンス																
2	企業研究の理論的アプローチ(講義、討論)																
3	現代社会における企業論の意義と課題(講義、討論)																
4	受講者による研究報告と討論1																
5	受講者による研究報告と討論2																
6	受講者による研究報告と討論3																
7	企業の実例1(ゲストスピーカー招聘または企業訪問、外部講師招聘した経営者や企業等を候補)																
8	企業の実例2(ゲストスピーカー招聘または企業訪問、外部講師招聘した経営者や企業等を候補)																
9	企業の実例3(ゲストスピーカー招聘または企業訪問、外部講師招聘した経営者や企業等を候補)																
10	ケーススタディ1(経営資源としてのモノに関する講義、報告、討論)																
11	ケーススタディ2(経営資源としてのカネに関する講義、報告、討論)																
12	ケーススタディ3(経営資源としての情報に関する講義、報告、討論)																
13	受講者による研究報告と討論、今後の課題の整理1																
14	受講者による研究報告と討論、今後の課題の整理2																
15	受講者による研究報告と討論、今後の課題の整理3 受講者数や進捗に応じて、内容を調整します。																
ラ イ ク ニ テ イ グ レ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	論文や報告資料など成果物をアウトプットすることにこだわります。他学生や異なる環境の中で学ぶ機会を設けます。				工 夫 そ の 他 の	毎回の授業でコメントシートの提出を求めます。コメントシートを通じて、授業の中で対応できなかった質問や感想に答えます。										
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	事前に指示した課題について、口頭で報告できるよう調べてくる(事前30時間)															
	事後学修	授業で言及した語句やテーマについて、文献などの原本をみて内容を確認する(事後15時間)															
教科書	教科書は使用しません。必要に応じてスライドやプリントを使用します。																
参考書	日置弘一郎『経営学原理』エコノミスト社 2000年 河野憲嗣『チェック・トランケーション研究』学文社 2013年 その他、テーマに応じて適宜紹介します。																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	レポート	50%															
	平常点	50%															
注意事項	ゲストスピーカーを招いたり、企業などへ現地調査に赴くことがあります。																
備考	受講希望者は初回講義日前日までに必ず担当教員までメールで連絡してください。																
リンク	個人ホームページ																
	URL <a href="https://kenjikouno.jimdo.com/">https://kenjikouno.jimdo.com/</a>																

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の实務 経験	企業経営者、全国銀行協会、人事担当
実務経験を いかした教 育内容	ビジネスの実体と金融の側面から、企業と社会イノベーションのあり方について解説します。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式								
KD10M154	比較経営史演習(Comparative Business History Seminar)						対面								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員									
必修	2		経済学研究科 博士後期課程	前・後		氏名 渡邊 博子  E-mail watanabe-hr@oita-u.ac.jp 内線 7702									
授業の概要	本演習では、日本経済の現状分析や歴史的展開、ならびに日本経済の成長を支えている(支えてきた)産業や企業を対象に、発展過程の比較とともにイノベーション過程や発展戦略に関する調査研究を行います。また、世界の中での日本の位置づけを理解したうえで、他国や他地域と同対象分野の比較研究も行います。幅広い観点や独創的な視点から、博士論文の完成に向けて、テーマの設定、文献・情報収集、実態調査とその分析、論文の取りまとめ、報告・発表(プレゼンテーション)などを実施します。														
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	博士論文を完成させるための具体的なテーマを設定し、研究方法や内容について検討する。														
目標2	報告や発表(プレゼンテーション)の仕方などを向上させる。														
目標3	博士論文の作成およびその質を高める。														
目標4	将来の進路を考え、行動する。														
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
授業の内容															
1	演習I														
2	研究計画の作成と確認、博士論文のテーマ設定、文献・資料等の整理と分析、先行研究調査など。														
3	演習II														
4	博士論文の構成の作成と検討、内容の作成、事例研究および実態調査の計画と着手、取りまとめと成果発表など。														
5	演習III														
6	博士論文の内容検討、仮説の設定、事例研究および実態調査の継続、取りまとめと成果発表など。														
7	演習IV														
8	博士論文の内容の検討と作成、事例研究および実態調査のまとめ、取りまとめと成果発表など。														
9	演習V														
10	博士論文の作成、独自性や社会的意義の検討、取りまとめと関連学会等での発表など。														
11	演習VI														
12	博士論文の最終仕上げ、最終成果発表、学術誌への投稿など。														
13															
14															
15															
ラ ア イ ク ニ テ ン イ グ レ ブ	A:知識の定着・確認	B:意見の表現・交換	C:応用志向	D:知識の活用・創造	ディスカッション、プレゼンテーション、事例研究、フィールドワーク、インターンシップ、学会発表など。	工 夫 そ の 他 の									
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	各テーマに関する文献、関連する最新の新聞・雑誌記事、インターネット情報などの検索と学修や報告準備(30時間)													
	事後学修	各テーマに関する学習の振り返りと理解(15時間)													
教科書	使用しません。														
参考書	参考文献・資料等は適宜紹介します。														
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10			
	課題対応や博士論文の達成状況	100%													
注意事項															
備考	具体的な内容や進め方などについては、受講生の要望に応じて相談しながら決めていきたいと思います。														
リンク	URL														

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の実務 経験	シンクタンク研究員等
実務経験を いかした教 育内容	産業分析や関連する資料収集の仕方などの説明。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名) 自治体経営論演習(Local Government Management Seminar)				区分・【新主題】/(分野)	授業形式 対面										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
必修	2		経済学研究科 博士後期	前・後		氏名 高 島 拓 哉 E-mail tataka@oita-u.ac.jp 内線 7678											
授業の概要	自治体改革の最前線をとらえているNPMやパブリック・ガバナンスをふまえて、住民主体の自治体改革の視点から様々な領域の改革課題を考える。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	広範な学問領域から、NPMの新展開を可能にしている政策論の新しい考え方を学ぶ																
目標2																	
目標3																	
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1	演習・・・では、小林芳匡(2020)『自治体民営化のゆくえ』など、基本的な文献を読みながら、NPMの新しい																
2	展開を具体的に理解してもらおう。院生には各文献について読んでレジュメを作成し報告してもらおう。																
3	同時に、博士論文の作成を進める。演習・・・の段階から、上の課題と並行して、各人の関心に沿って先行研究を入手して、これ																
4	も文献ごとに報告をしてもらう。それを踏まえて研究方針を固め、執筆にかかる。																
5																	
6																	
7																	
8																	
9																	
10																	
11																	
12																	
13																	
14																	
15																	
ラ ッ ク ニ テ ィ ン グ	A:知識の定着・確認	自らのテーマに関する自治体の統計・資料や政策文書の内容を検討し、 テーマに即して考察する(5h)				工 夫 そ の 他 の											
準備 学修	自らのテーマに関する自治体の統計・資料や政策文書を収集する(5h)																
事後 学修	考察した内容を演習でふれた論点を踏まえて再度考察する(12h)																
教科書	尾林芳匡(2020)『自治体民営化のゆくえ』自治体研究社ほか相談して決めます。																
参考書																	
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10					
	最終レポート	100%															
注意事項																	
備考																	
リンク	URL																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)	授業形式													
		地域産業構造論演習(Seminar on Regional Industry and Development)					対面													
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員														
必修	2		経済学研究科 博士後期	前・後		氏名 宮 町 良 広  E-mail ymiya@oita-u.ac.jp 内線 7684														
授業の概要	本演習では、経済地理学・地域産業論の分野のなかで、受講生の研究履歴および研究テーマに即して理論面および実証面のバランスを取りながら議論します。とりわけ地域経済・産業の調査分析、地域産業政策や国土政策を理解するために必要な理論や専門的知識を探究します。理論面では、地域構造論、レギュレーション理論、多国籍企業論などから主要論点を取り上げます。実証面では、現代経済の主導的産業について、ローカルからナショナル、グローバルまでの各スケールにおける空間的展開、さらにスケール間の相互関係を究明します。その際、文献、統計資料などで研究対象を絞り、現地調査によって地域経済・産業の実態の解明につなげます。																			
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)									1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	地域産業構造や地域経済発展に関するこれまでの学問成果を理解し、自立的に研究できる。																			
目標2	地域産業構造や地域経済発展に関する分析手法を理解し、自立的に研究できる。																			
目標3	研究に必要な各種技能を体得し、自立的に研究できる。																			
目標4	博士学位論文を作成できる。																			
目標5																				
目標6																				
目標7																				
目標8																				
目標9																				
目標10																				
授業の内容																				
1	イントロダクション, 受講生の研究履歴の把握																			
2	研究計画の作成																			
3	研究計画の作成																			
4	地域産業構造論に関する理論的テキストの輪読																			
5	地域産業構造論に関する理論的テキストの輪読																			
6	地域産業構造論に関する理論的テキストの輪読																			
7	地域産業構造論に関する理論的テキストの輪読																			
8	地域産業構造論に関する理論的テキストの輪読																			
9	地域産業構造論に関する理論的テキストの輪読																			
10	地域産業構造論に関する理論的テキストの輪読																			
11	研究方法に関する文献研究と実習																			
12	研究方法に関する文献研究と実習																			
13	研究方法に関する文献研究と実習																			
14	博士論文テーマの検索																			
15	博士論文テーマの検索																			
ラーニング	A:知識の定着・確認	論文プレゼン、質疑応答、意見共有、受講生の報告を通じた自主的研究の促進																		
ニテ	B:意見の表現・交換																			
ンイ	C:応用志向																			
グ	D:知識の活用・創造																			
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	研究報告準備(20h)																		
	事後学修	文献学習、まとめ作成(10h)																		
教科書	教科書を利用する場合は受講生と相談の上で決定します。																			
参考書	授業中に指示します。																			
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10								
	報告内容などを総合的に評価します。	100%																		
注意事項																				
備考																				
リンク	URL																			



ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
		交通・観光政策論演習(Seminar of Transportation and Tourism Policy)															
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
必修	2		大学院経済学 研究科	前期・後 期		氏名 大井 尚司  E-mail ooi-hisashi@oita-u.ac.jp 内線 7697 (連絡はメールをお願いします)											
授業の概要	交通・地域問題・観光・公益事業の分野において、現実に行き起きている問題に着目し、経済学・交通計画・経営学等の理論的視座と定量的な分析手法を用いて、着目した問題に対して有効な政策提言と学術的貢献をできるような水準のアウトプットを出せるようになることを狙いとす。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	交通・地域問題・観光・公益事業の分野で課題設定ができる																
目標2	設定した課題に対する適切な研究レビューができる																
目標3	設定した課題に対して各学問の理論面からの考察と課題設定ができる																
目標4	設定した課題に対して適切なデータ収集を行うことができる																
目標5	収集したデータに対して適切な分析手法で分析を行うことができる																
目標6	理論・定量分析の結果から適切な政策提言を行うことができる																
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1	ガイダンス、問題意識の確認、研究テーマ設定のブレインストーミング																
2	研究テーマ設定のブレインストーミング																
3	研究工程の作成、必要なツールについての確認																
4	先行研究レビュー、ツールについてのレクチャー																
5	先行研究レビュー																
6	論文構成の設定、テーマ設定・工程・仮説の再検証																
7	調査・データ収集等の工程作成と準備																
8	調査・データ収集等の実施、論文執筆と中間報告																
9	調査・データ分析等の実施、論文執筆と中間報告																
10	調査・データ分析等の実施、論文執筆と中間報告																
11	調査・データ分析等のとりまとめ、論文執筆と中間報告(学会発表含む)																
12	草稿の完成と確認																
13	草稿の修正、必要な研究レビュー等の追加																
14	草稿の修正																
15	最終提出稿の完成																
ラ ア イ ニ テ ン イ グ プ	A:知識の定着・確認	最低でも月1回以上、成果報告の資料提出かそれに代わるものを求め、コメントと受講生のリプライで双方向性を担保する。				工 夫 そ の 他 の	受講生の希望に応じて、卒業生や実務家等のコメントをもらえるようにすることで、研究成果の内容の質を上げる。										
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	必要なツール(理論、データ分析方法など)についての学習、先行研究の読了は、本演習内ですべてを行うことは困難なため、他の講義の履修など自らの学習が必要になる(2~3時間/週以上)。															
	事後学修	受けたコメント・指導を踏まえて、修正点を忘れないうちに整理し、研究を進めておくことが求められる(1~2時間/週以上)。															
教科書	研究テーマの設定後、適切な文献を指定する(外国語文献を含む)。																
参考書	受講生の研究分野に応じて適宜紹介する。分析手法の文献を提示することもある。																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	発表・中間報告の内容	70%															
	最終成果物(論文またはリサーチペーパー)	30%															
注意事項	1) 演習の時間帯に限らず、進捗に応じて随時個別指導を行うことがありうる(長期休暇中も)。 2) 分析手法・理論に関して、学部レベルのミクロ経済学とエクセルで分析できるレベルのデータ解析を求める。																
備考	関連分野の研究を行っている院生がサブゼミとして参加することは、研究の幅を広げる意味で有効なため歓迎する(事前に連絡いただきたい。ただし本学にサブゼミの制度がないため単位にはならない)。																
リンク																	
	URL																

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の実務 経験	旅行会社（交通事業者系）・国土交通省系研究所での勤務経験、政策形成の現場に従事している。
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無	
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	必要に応じ、交通事業者・行政など実務を行っている方からの助言をもらうことがある（当研究室の卒業生に該当する人が存在する）。
実務経験を いかした教 育内容	政策形成に関わっているので、最新の情報は随時提供する。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
KD10E130		労使関係論演習(Industrial Relations Seminar)					対面										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
必修	2	1	経済学研究科 博士後期	前・後		氏名 石井 まこと E-mail mak@oita-u.ac.jp 内線 7698											
授業の概要	課題報告された対象および分析について、論理性と実証性を高める。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 課題報告について、論理性と実証性を高める。																	
目標2																	
目標3																	
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1 文献分析および事例分析(1)																	
2 文献分析および事例分析(2)																	
3 文献分析および事例分析(3)																	
4 文献分析および事例分析(4)																	
5 文献分析および事例分析(5)																	
6 文献分析および事例分析(6)																	
7 文献分析および事例分析(7)																	
8 文献分析および事例分析(8)																	
9 文献分析および事例分析(9)																	
10 文献分析および事例分析(10)																	
11 文献分析および事例分析(11)																	
12 文献分析および事例分析(12)																	
13 文献分析および事例分析(13)																	
14 文献分析および事例分析(14)																	
15 総括																	
ラーニング	A:知識の定着・確認	受講生と文献・資料に関して議論し、批判的検討を行うことで論点を深める。				工夫	その他の										
	B:意見の表現・交換																
	C:応用志向																
	D:知識の活用・創造																
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修																
	事後学修																
教科書	受講者と相談の上、決定する。																
参考書	随時、提示する。																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	授業時の発言・報告状況	100%															
注意事項																	
備考																	
リンク																	
	URL																

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
KD10E112	経済政策論演習(Theory of Economic Policy Advanced Seminar)						対面										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
必修	2	1, 2, 3		前・後		氏名 高見 博之 E-mail htakami@oita-u.ac.jp 内線 7674											
授業の概要	経済政策の観点から、主としてミクロ経済学の分析手法を用い、博士論文作成につながる分析方法を修得することを目的とします。博士論文の作成に向けて、先行研究を整理した内容、及び、発展させた内容についての報告と報告内容の検討を行います。																
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	博士論文の研究に関わる先行研究について情報収集できるようになること。																
目標2	先行研究について、受講者の問題意識に基づき、整理出来るようになること。																
目標3	先行研究の整理を基にして、分析する課題を設定できるようになること。																
目標4	受講者の研究テーマについて、主としてミクロ経済学の分析手法を用いて分析できるようになること。																
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1	ガイダンス																
2	経済政策に関わる教科書・先行研究の輪読																
3	経済政策に関わる教科書・先行研究の輪読																
4	経済政策に関わる教科書・先行研究の輪読																
5	経済政策に関わる教科書・先行研究の輪読																
6	経済政策に関わる教科書・先行研究の輪読																
7	経済政策に関わる教科書・先行研究の輪読																
8	経済政策に関わる教科書・先行研究の輪読																
9	経済政策に関わる教科書・先行研究の輪読																
10	経済政策に関わる教科書・先行研究の輪読																
11	経済政策に関わる先行研究の整理																
12	経済政策に関わる先行研究の整理																
13	経済政策に関わる先行研究の整理																
14	経済政策に関わる先行研究の整理																
15	経済政策に関わる先行研究の整理																
ラ ブ ニ ン グ	A:知識の定着・確認	講義時に先行研究の報告と報告内容についての議論を行ないます。					工 夫	そ の 他 の									
時間外学修の内容と時間の目安	準備 学修	・博士論文のテーマに関わる先行研究や報道内容についての情報収集。 ・先行研究の講読。															
	事後 学修	講義を基に関連研究の講読、整理。 (1回 2h)															
教科書	講義時に指示します。																
参考書	講義時に指示します。																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	演習での報告・課題レポート	100%															
注意事項																	
備考	課題作成の際は、数値計算ソフト ( Mathematica など ) を利用する場合があります。																
リンク	URL																

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
KD10E136	経済史演習(Economic History Advanced Research Seminar)						対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
必修	2		経済学研究科 博士後期	前・後		氏名 市原 宏 一  E-mail ich@oita-u.ac.jp 内線 7719						
授業の概要	東部中欧地域の近代化を特徴つける要因である「ドイツ人植民」の意義と役割を理解し、工業化前の農村社会の特徴と封建化過程におけるバルト海を通じた社会経済的な交流の深さと広がりについて検証する。これらを通じて、各受講生の学位論文作成を進める。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1 2 3 4 5 6 7 8 9 10					
目標1	文献資料に基づく先行研究の整理を行える											
目標2	農村および交易に関する考古学研究成果の整理を行える											
目標3	文献史料と考古学資料の総合的に検討できる											
目標4	環バルト海世界の社会構成上の特徴について検証できる											
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	ガイダンス											
2	先行研究の整理(1)											
3	先行研究の整理(2)											
4	先行研究の整理(3)											
5	先行研究の整理(4)											
6	中間報告(1)											
7	先行研究の整理(5)											
8	先行研究の整理(6)											
9	先行研究の整理(7)											
10	先行研究の整理(8)											
11	中間報告(2)											
12	先行研究の整理(9)											
13	先行研究の整理(10)											
14	先行研究の整理(11)											
15	最終報告											
ラ イ ク ニ テ ン イ グ ラ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	使用文献の訳出と内容の理解、授業課題に関連する複数の先行研究についての調査と文献リストづくり等				工 夫 そ の 他 の						
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	自身の関心に基づく課題に関して、先行研究などの調査、翻訳などを行ったうえで、要旨を作成する。5 h										
	事後学修	演習内での、教員およびほかの院生からの指摘を踏まえて、報告要旨の修正を行い、さらに、先行研究などの調査、翻訳などを加える。5 h										
教科書	授業の中で、テーマに適した文献を各自で設定します。											
参考書	授業の中で、テーマに適した文献を紹介します。											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	中間報告	40%										
	最終報告	60%										
注意事項												
備考												
リンク	URL											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
KD10E118	国際政治論演習(Using Political Science to understand Organizational Change Seminar)						対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
必修	2		経済学研究科 博士後期	前・後		氏名 デイ スティーブン E-mail sriday@oita-u.ac.jp 内線 6676						
授業の概要	The goal of this seminar will be to provide learners with the key skills necessary for undertaking doctoral research in the field of EU studies and comparative politics. In so doing, it will take a broad thematic approach that includes: prerequisites for undertaking research; grappling with theory; and EU studies. It will be driven by a focus on real-world events. After the first year, we will concentrate on topics that are relevant to the thesis of the doctoral student(s).											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1 2 3 4 5 6 7 8 9 10					
目標1	Developing research and writing skills											
目標2	Develop an analytical ability to recognize different institutional approaches											
目標3	Identify what agency-based and structural based factors influence the evolution of politics											
目標4	Build an awareness and understanding of contemporary European politics											
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	Thinking about politics and political science											
2	What is comparative politics and international relations?											
3	Research design and research techniques - quantitative methods											
4	Research design and research techniques - the power of process tracing											
5	Institutional theory in political science - rational choice institutionalism											
6	Institutional theory in political science - historical institutionalism											
7	Institutional theory in political science - constructivism and discursive institutionalism											
8	Applying theory to the real-world study of politics - the case of the European Union											
9	Understanding the importance of structure and agency											
10	Applying structure and agency to real-world politics - the role and significance of political parties											
11	Case Study Brexit. The importance of agency-based factors											
12	Case Study Brexit. The importance of structural-based factors											
13	Case Study Brexit. Process-tracing											
14	Case Study Populism. Developing an analytical understanding											
15	Case Study Populism. What are the structural and agency-based reasons for the rise of populism?											
ラーニング	A:知識の定着・確認	As an interactive class there will be a number of individual and small-group task-based exercises. This will include: quizzes, exercises in applying theory to real-world scenarios and evaluating a wide range of media reports.				工夫	その他の					
時間外学習の内容と時間の目安	準備	30 hours - In order to consolidate the class-based material read specific chapters from the text books as well as a number of newspaper articles that will be provided in class.										
	事後	15 hours - Reflect on the issues raised in the class discussion by writing a brief academic diary to be presented at the next class. Work towards researching and constructing the portfolio.										
教科書	Heather Savigny and Lee Marsden (2011), Doing Political Science and International relations, Palgrave: Macmillan. ISBN: 0230245870 B. Guy Peters (2019) Institutional Theory in Political Science: The New Institutionalism (4th Edition), Edward Elgar. ISBN : 1786437929 『「ブレグジット」という激震 混迷するイギリス政治』 スティーブン・デイ・カウ昌幸 共著 2021年, ミネルヴァ書房. ISBN: 4623090639											
参考書	Additional material will be provided in class											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	Doctoral Research	70%										
	Class-based exercises	30%										
注意事項	The determination to study political science in English and a willingness to participate in classroom based activities											
備考	A willingness to engage in critical thinking as we make use of a plethora of different source material: newspaper, academic journals, video and web-based material etc.											
リンク	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式												
KD10E124		現代社会分析論演習(Contemporary Socio-Analytic Studies Seminar)						対面												
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員														
必修	2		経済学研究科 博士後期	前・後		氏名 豊島 慎一郎  E-mail stoy@oita-u.ac.jp 内線														
授業の概要	本演習では、社会学（社会階層論やボランティア・NPO研究を中心に）を基に、政策面と実践面の双方から市民社会構築の現状と課題について考察する。																			
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10			
目標1 社会学に関する専門的知識や応用力を修得する。																				
目標2 報告および議論を通して理解を深める。																				
目標3																				
目標4																				
目標5																				
目標6																				
目標7																				
目標8																				
目標9																				
目標10																				
授業の内容																				
1 オリエンテーション																				
2 報告と議論1																				
3 報告と議論2																				
4 報告と議論3																				
5 報告と議論4																				
6 報告と議論5																				
7 報告と議論6																				
8 報告と議論7																				
9 報告と議論8																				
10 報告と議論9																				
11 報告と議論10																				
12 報告と議論11																				
13 報告と議論12																				
14 報告と議論13																				
15 総論																				
ラーニング	A:知識の定着・確認	受講生は、指導教員が指示した文献について報告し、それを基に議論を行う。					工夫 その 他の													
	B:意見の表現・交換	受講生はレジュメを作成し、要約および内容に関するコメントを報告する(毎回)。																		
ニテ	C:応用志向																			
グ	D:知識の活用・創造																			
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	論文等を事前に読み、レジュメを作成する(22h)。																		
	事後学修	論文等を用いて復習する(23h)。																		
教科書	適宜指示する(英語論文、調査論文あり)。																			
参考書	適宜指示する(英語論文、調査論文あり)。																			
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10								
	報告および議論	100%																		
注意事項																				
備考	1年次に「現代社会分析論特研」を受講すること。																			
リンク																				
	URL																			

授業科目名 (科目の英文名)					専攻・コース	
多文化共生社会論演習 (Multicultural Symbiotic Societies Research Seminar)					地域経営専攻	
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員	
必修	各2	1.2.3	前期・後期	他	包 聯群 (Lianqun BAO) E-mail blianqun@oita-u.ac.jp 内線 7724	
授業の概要	本演習では、「多文化共生社会」への理解を一層深めることを目標とする。そのため、言語と文化の多様性とは何か、多言語多文化状況の諸相などを把握し、グローバル化社会への理解を深め、企業の多言語サービスや多文化への適応能力に関する課題も対象にし、地域社会への参与意識や理解度などを向上していく。同時に、受講生の研究テーマに沿った指導も行う。					
具体的な到達目標						
目標1	「多文化共生社会」とは何かについて、関連する資料を読んで理解すること。					
目標2	研究テーマに関連付けて「多文化共生社会」の役割を評価できること。					
目標3	「多文化共生社会」を通じて、地域活動への参与意識を強化し、理解を深めること。					
目標4						
目標5						
授業の内容						
1	ガイダンス					
2	「多文化共生社会」に関連する資料の購読1					
3	ディスカッション (1)					
4	「多文化共生社会」に関連する資料の購読2					
5	ディスカッション (2)					
6	「多言語多文化共生社会」に関連する企業の取り組み1					
7	事例報告 (1)					
8	「多言語多文化共生社会」に関連する企業の取り組み2					
9	事例報告 (2)					
10	「多言語多文化共生社会」に関連する企業の取り組み3					
11	事例報告 (3)					
12	研究テーマに関連する資料の購読1					
13	研究テーマに関連する資料の購読2					
14	発表、報告					
15	まとめ					
アクティブ ラーニング	A.知識の定着	関連書籍、論文を読むことによって、授業で学んだ知識を定着させる。また、ディスカッションを通じて、意見交換を行う。研究テーマの応用に向けて、地域の活動に参与する意識や理解度を向上していく。			その他の 授業の工夫	
	B.意見の表現・交換					
	C.応用志向					
	D.知識の活用・創造					
時間外学 修の内容 と時間 の 目 安	準備学修	関連データの収集と閲覧、予習時間 (15h)				
	事後学修	関連課題の復習時間 (15h)				
教科書	1. 随時指示する。 2. その他 (資料配布)。					
参考書	1. 『多言語社会日本 その現状と課題』。多言語化現象研究会編、2013年、三元社。 2. 『多言語・多文化社会へのまなざし—新しい共生への視点と教育』。赤司英一郎/荻野文隆 /松岡栄志編、2008年、白帝社。 3. 『多言語社会がやってきた』(世界言語政策 Q&A)。河原俊昭 /山本忠行編、2004年、くろしお出版。 4. 『世界の言語政策 第3集 一多言語社会を生きる—』。山本忠行 /河原俊昭編、2010年、くろしお出版。 5. 『多言語主義再考 多言語状況の比較研究』。砂野幸稔編、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所発行、2012年、三元社。					
成 績 評 価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法				割合	
	発表、ディスカッションなど				50%	
	期末レポート				50%	
					%	
					%	
					%	
注意事項						
備考						
リンク	URL					
担当教員の実務経験の有無	有	東京の大学にて、大学院の授業を担当した経験を持つ。				
教員の実務経験						
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有					
教員以外の指導に関わる実務経験者	海外の大学の博士論文を審査した経験を持つ。					
実務経験を いかした教育内容						